

イネ縞葉枯病の発生抑制へ向け、ヒメトビウンカの防除を実施しましょう！

令和2（2020）年5月中～下旬に、ヒメトビウンカ第一世代幼虫を麦類ほ場から採集し、イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率を調査した結果、県平均が6.1%（平年値6.8%）でした（表1）。また、ヒメトビウンカ第一世代幼虫の麦類ほ場での生息密度は、県平均で90.5頭と平年に比べやや少ない状況でした（図1）。

県平均の保毒虫率・生息密度は昨年度より低下しましたが、6月4日発表の1か月気象予報では、気温は平年より高い見込みです。今後、高温の影響でヒメトビウンカが増加した場合、イネ縞葉枯病の発生拡大が懸念されます。本病の発生拡大を防ぐためにも、適切な防除を実施しましょう。

表1 ヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率(%)

地点名・年度		(H30) 2018	(R元) 2019	(R2) 2020
県北部	大田原市親園	2.1	8.3	1.0
	大田原市蛭畑	3.1	1.0	1.0
	さくら市松山新田	6.3	5.2	0.0
	高根沢町花岡	2.1	2.1	9.1*
県中部	真岡市青田	15.6	10.4	17.7
	宇都宮市横山町	5.2	10.4	6.3
	宇都宮市雀宮	10.4	9.4	8.3
	上三川町上三川	12.5	13.5	7.3
	鹿沼市酒野谷	7.3	7.3	6.3
県南部	下野市小金井	4.2	3.1	7.3
	下野市絹板	21.9	5.2	8.3
	小山市小葉	5.2	7.3	5.2
	小山市石ノ上	10.4	11.5	5.2
	壬生町助谷	3.1	7.3	3.1
	栃木市惣社町	3.1	4.2	5.2
	栃木市大平町真弓	2.1	5.2	7.5**
	栃木市藤岡町富吉	3.1	4.2	3.1
	佐野市堀米町	8.3	5.2	9.4
	足利市上洪垂町	1.0	2.1	5.2
県北部平均		3.4	4.2	2.8
県中部平均		10.2	10.2	9.2
県南部平均		6.2	5.5	6.0
県平均		6.7	6.5	6.1



写真1 イネ縞葉枯病の病徴
(左) ゆうれい症状 (右) 穂の出すくみ症状



写真2 ヒメトビウンカ (左) 雌成虫 (右) 幼虫

注) 検定サンプル：5月中下旬に麦類ほ場から採取したヒメトビウンカ第一世代幼虫

検定方法：DAS-ELISA法 検定数：96頭/1地点（ただし、*は77頭/1地点、**は67頭/1地点）

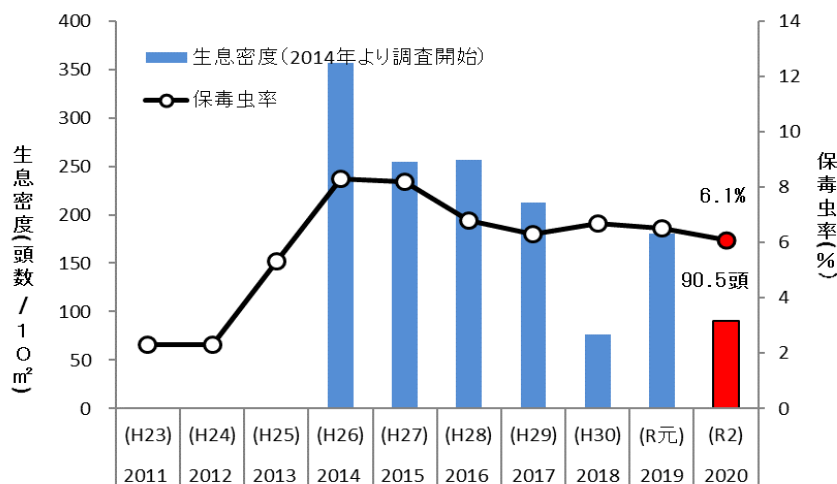


図1 ヒメトビウンカ第一世代幼虫の生息密度及びイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

防除対策

(1) 移植前の対策：普通植栽培

普通植栽培ではチョウ目害虫の被害も懸念されるため、ウンカ類・チョウ目害虫の両方に登録のある箱施用剤を使用する（表2）。

表2 稲（箱育苗）のウンカ類・チョウ目害虫に登録のある主な薬剤(令和2(2020)年5月27日現在)

農薬名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	成分	農薬の系統	RACコード
スターダム箱粒剤 (ウンカ類、コメイトウ、ワヅバコヤガ)		移植3日前～移植当日	1回	ジノテフラン	ネオニコチノイド	4A
フェルテラチェス箱粒剤 (ウンカ類、コメイトウ、コメノメイガ) (※ワヅバコヤガ、イトムシ)	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g	は種時(覆土前)～移植当日 ※ワヅバコヤガ、イトムシは移植3日前～移植当日	1回	ピメトロジン	ピリジニアゾメチン	9(B)
				クロラントラニリプロール	ジアミド	28
ゼクサロンパディード箱粒剤 (ウンカ類、コメイトウ、コメノメイガ、ワヅバコヤガ)		は種時(覆土前)～移植当日	1回	トリフルメゾピリム	その他	4E
				シアントラニリプロール	ジアミド	28

注1：対象害虫はウンカ類・チョウ目のみ抜粋

注2：薬剤抵抗性の発達を防ぐ観点から、RACコードが同一のものの連用を避ける。

(2) 本田での対策：早植・普通植栽培

本ウイルスを媒介するヒメトビウンカの本田防除を、表3の薬剤等を参考に各地域での発生状況に合わせ、地域ぐるみで行う。効果的な防除タイミングは第一世代成虫の産卵最盛期から7日後までの間とされている。地域ごとの予想産卵最盛期は下記のとおりである（表4）。

なお、箱施用剤を使用したほ場で本田防除を行う場合は、同一RACコードの連用を避ける。

表3 稲のウンカ類に登録のある主な薬剤(令和2(2020)年5月27日現在)

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の使用回数	成分	農薬の系統	RACコード
●粒剤						
スタークル豆つぶ	250～500g/10a	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	ネオニコチノイド	4A
ダントツ粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン		
●液剤						
スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	ネオニコチノイド	4A
スタークルメイト液剤10						
ダントツ水溶液	4000倍	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン		
MR. ジョーカーEW	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	シラフルオフェン	ピレスロイド	3(A)
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	エトフェンプロックス		

注1：薬剤抵抗性の発達を防ぐ観点から、RACコードが同一のものの連用を避ける。

表4 水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の予想産卵最盛期と防除適期

	宇都宮	小山
予想産卵最盛期	6/17	6/15
予想防除適期	6/17～6/24	6/15～6/22

※6/4 はアメダス現況値、以降は平年値に1.0℃を加算（気象庁1か月予報データを活用）

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病虫害情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)](https://twitter.com/tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。